

# 平成 27 年度 第7回とやま建設フォトコンテスト

## 総 評

当コンテストは今回で7回目を迎えました。回を追う毎に高まりを見せ、今年度も質の高い作品が沢山集まりました。

審査にあたっては、作品の構図、画面構成などの技術的な面はもちろんですが、コンテストのテーマをどう理解し、それを表現しているかに重点を置き、審査員5名によって慎重に審査しました。

**審査委員長 堀田信一**  
(富山県写真連盟委員長)

## 第7回とやま建設フォトコンテスト概要

募集時期 平成 27 年 8 月～平成 28 年 1 月  
主 催 (一社)富山県建設業協会  
後 援 富山県、富山県建設産業団体連合会、  
東日本建設業保証(株)富山支店  
応募点数 116点  
入賞作品 9作品

## 募集部門

- 働く人部門……建設業で働く人々が、いきいきと誇りを持って物づくりに携わる姿等をとらえた作品
- 物づくり部門…建造物や建設機械などを対象に、建設産業のスケールの大きさや重要性等をとらえた作品。
- 絆部門……除雪活動や防災対策など、建設業と地域のつながり、人々の安心安全を守るために担っている役割・活動をとらえた作品

## 特 選

## 【早朝の駅前】 高畑 訓 (撮影場所:富山市)



さまざまな人々の表情を見つめてきた、富山駅前通りも変化をとげてきています。

その駅前のビルの一角から俯瞰して撮影した光景。眠りから覚めてこれから動き出す県都の早朝を、丸い屋根のバス・タクシー乗り場の柔らかな光、JR 構内の直線的な灯りとを対比させ、これに動き出した市電のライトを添えて画面をうまくまとめています。

新雪の朝の雰囲気をよく表現し、これからの富山の明るい未来を感じさせる作品に仕上げています。



### 働く人部門賞【家づくりI】

松谷 憲利(撮影場所:高岡市)

一般住宅の建築現場で働く女性大工の姿が何とも勇ましくそして美しく感じました。

ヘルメットの下から覗く横顔に真剣な表情が読み取れます。女性の方にもっと活躍して頂きたいと思わずにはられません。

### 物づくり部門賞【橋梁】

上野 敬二(撮影場所:南砺市)

道路建設のための橋脚、仮設構台の工事現場とのことで、山あいでの工事の大変さを伺わせます。画面の中に占める落ち着いた色合いの中に、中央の赤と緑が程よいアクセントになって画面を引き締めている。スケール感のある作品です。



### 絆部門賞【初めての建設機械】

田中 和恵(撮影場所:射水市)

協会主催の親子現場見学会とのことです。パワーショベル内で現場監督から説明を受ける女の子。真剣な表情をうまく切り取ったのはお母さんでしょうか、現場の方でしょうか。女の子を見守る優しい思いが伝わってきます。向う側に見える子どもさんの表情がもう少し見えるともっと良かった。

### 佳作【未来の水道配管技能士】

高野 喜彦(撮影場所:富山市)

市民の生活に密着した水道配管の工事、その技能士の厳しい訓練、技能を磨くため、一生懸命な様子が伝わってきます。



### 佳作【式典の場所取り】

高田 孝悦(撮影場所:氷見市)

能越道の開通式の厳かな式典に集まった沢山の関係者の方々。富山・石川両県の知事の姿も見えます。タイトルからして中央でカメラを構える報道陣の人たちが主役なのでしょうか。



### 佳作【豆谷の現場】

加藤 福蔵(撮影場所:南砺市)

山を削ってのダム工事用道路の工事。中央右の三角形のような法面に造形的な良さを感じるとともに、画面全体が落ち着いた色合いでまとめたことで作品に品の良さを感じます。晩秋の装いとともにも下部のくねった道路が画面を引き締めています。



### 佳作【橋梁】

西野 信一(撮影場所:射水市)

橋を架ける立体交差事業、中でも大きなものは通行止めにして夜間にしか工事ができないとのこと。人物が小さく入ったことで橋梁の大きさと対比でスケール感が表現され、非常にダイナミックな画面構成となりました。また闇の黒に対して工事現場を照らす光が、いい。



### 佳作【天空の作業】

吉岡 修(撮影場所:射水市)

高圧線の点検作業でしょうか。澄み切った青空に白い雲、斜めに走る高圧線が構図に動きを与えています。上から下る赤いロープがちょっとしたアクセントになっていて良いと思います。

全体的に色彩の良さと共に5人の作業員がバランス良く配置され、見る者にとってスリリングな雰囲気の中、作業員の方々の真剣さが伝わってきます。鉄塔を入れなかったことでまさにタイトルの通りとなりました。

